

日本現存支那鐘鐘銘集成稿（中）

石 田 肇
（社会科学教育講座）

小稿は前稿「日本現存支那鐘鐘銘集成稿（上）」（群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編『第四四巻』）に続く第二報である。凡例等に關しては前稿を参照されたい。小稿を記すにあたっては所蔵者ならびに所蔵機関、そして関係者各位にお世話になった。ここに記して謝意を表したい。

9 泉屋博古館鐘 弘治十二年（一四九九）〔図21〕

- ① 泉屋博古館 京都市左京区鹿ヶ谷宮ノ前町
- ② 大明弘治己未年孟春吉日
- ③ 総高二七・〇 龍頭高四・五 口径一五・八 重量四・四
- ④ 下帯八掛文の三の下に横書の銘文あり。陽鑄。
〈銘文〉
- 大明弘治己未年孟春吉日製
- ⑤ 上帯には十三の蓮弁あり。池の間にあたる部分は上下二段に分

かれており、上下とも同じ模様が平行して施され、それらは粗い雷文地の上に饜饗文から変化した獣面。下帯の八掛文と撞座の關係は三（銘文）、三〇、三、三〇、三、三〇、三、三〇、と
なっている。下縁は八葉。全体に鍍金が施されている。



〔図21〕 泉屋博古館鐘

⑥ 大正から昭和初期に住友家が購入したと推測されるが委細は未詳。泉屋博古館では「鍍金獸面八掛文喚鐘」（彝一九〇）と称する喚鐘である。

⑧ 平成元年十二月二日、鈴木勉氏同行。

10 光明寺鐘 正徳四年（二五〇九） [図22〜24]

① 光明寺 福岡県田川郡赤村字赤

② 正徳四年九月吉日

③ 総高二二九・六 龍頭高三七・六 口径七八・八

④ 上段縦帯の四ヶ所と上段池の間の一区にあり。陽鑄。

法 輪 常 轉		仏 日 増 輝
------------------	--	------------------

≡	≡	≡
---	---	---



	帝 道 遐 長		皇 圖 永 固	正 徳 四 年 九 月 吉 日 造
--	------------------	--	------------------	---

≡	≡	≡	≡	≡
---	---	---	---	---

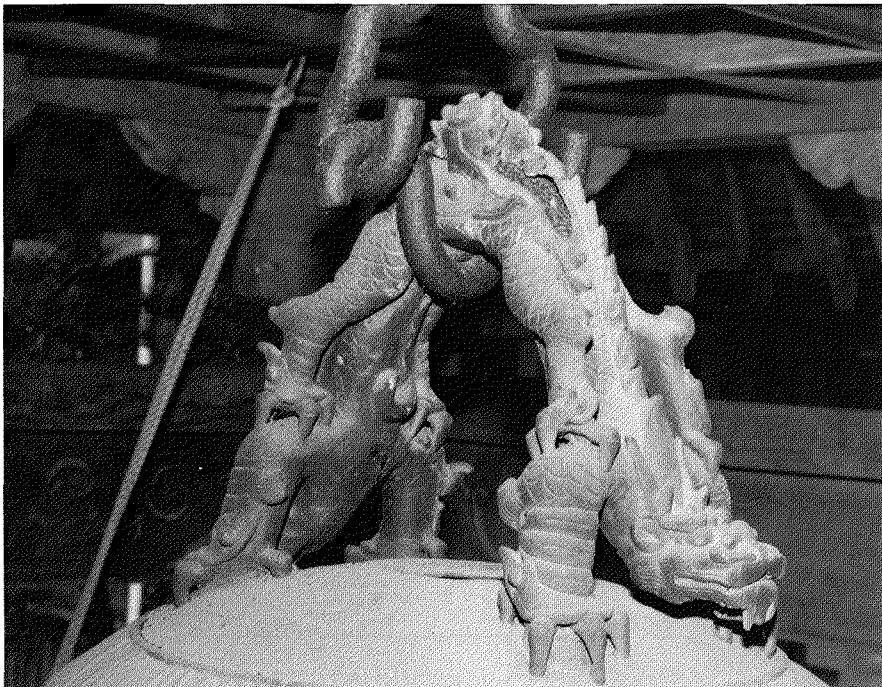
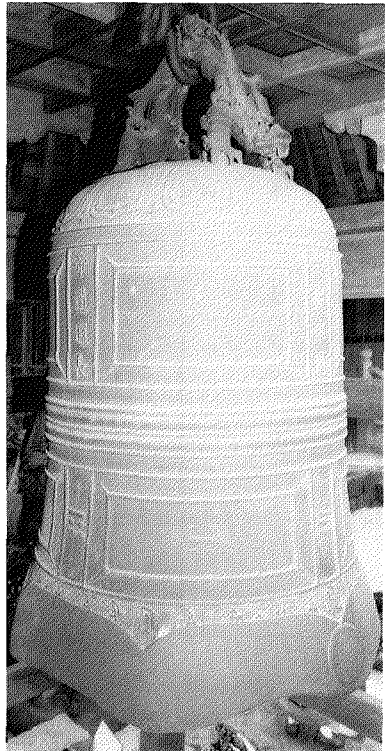


⑤ 上帯には十二の蓮弁あり。八掛文が縦帯下部と下段池の間にある。下帯には奇岩波頭の模様あり。下縁は六葉。龍頭の一部が破損しており、鉄筋が見えることから、この鐘は鉄芯の入った龍頭が笠型にインサート鑄造された例であり、笠型内側にはダボが四つある。

〔図23〕
鐘銘拓本



〔図22〕
光明寺鐘

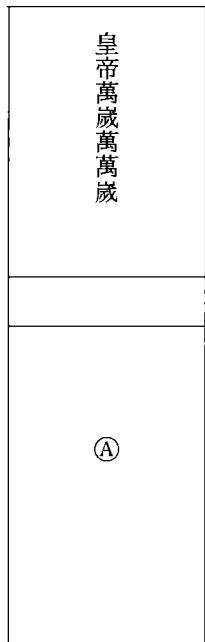


〔図24〕 龍頭(破損部に鉄芯が見える)

- ⑥ 大正の頃に寺に齎されたとされるが委細は未詳。
- ⑦ 西村強三「梵鐘竜頭の鑄造に関する一資料——山口・興隆寺鐘と福岡・光明寺鐘（中国明時代）」、『九州歴史資料館 研究論集』十二 昭和六二年
- ⑧ 平成元年十一月五日、鈴木勉氏同行。
- ⑨ 鉄芯については真新利雄氏の教示である。

11 リトルワールド鐘（小寺敏子氏寄託）
正徳八年（二五一三） 〔図25～27〕

- ① 野外民族博物館リトルワールド 愛知県犬山市今井成沢
- ② 大明正徳八年歲次癸酉孟春上元吉日
- ③ 総高一六七・五 龍頭高三五・五 口径九八・七
- ④ 上段池の間四区、下段池の間四区に経文、上段縦帯一区と下段縦帯二区に紀年等の銘文あり。上段縦帯の銘文は位牌型内にあり。銘文は全て陽鑄なるも、下段縦帯の「靈佑觀」の三字は原銘を彫りくずして象嵌した模様。



<p>大羅天闕紫微星宮 尊居北極之高位正 事天之上佛號金輪</p>		<p>紫。微。辰。極。勾。陳。天。宮。 九。光。寶。苑。之。中。五。炁。 玄。都。之。上。體。元。皇。而。 佐。司。玄。化。總。兩。極。而。 共。理。三。才。主。持。兵。革。 之。權。衡。廣。推。大。德。統。 御。星。辰。之。躔。次。母。失。 常。經。上。象。巍。我。真。元。 恢。漢。大。悲。大。願。大。聖。 大。慈。</p>
<p>大聖醜魔。糾察三界 鬼神刑憲都提轄使 三界採深捕鬼。使者</p>	<p>⑧</p>	<p>混元六天傳法教主 修真悟道濟度群迷 晉為衆生八十二化 三界祖師。大慈大悲 救苦救難三元都總 管九天遊奕使左天 罡北極右垣大將軍 鎮天助順真武靈應 福德衍慶。仁慈正烈 協運真君治世福神 玉虛師相玄天上帝 金闕化身蕩魔。 天尊</p>



<p>九華玉闕七寶皇房 承天稟命之期主陰 執陽之柄道推尊而 含弘光大德數。蓄於 柔順利貞效法昊天 根本育坤元之美流</p>		<p>熾盛道称王斗玄尊 璇璣玉衡齊七政總 天經地緯日月星宿 約四時行黃道紫垣 萬象宗師諸天統御 大悲大願。大聖大慈 萬星教主無極元皇 中天紫微北極大帝 先天一炁趙元帥。</p>
<p>先天主將一炁神君 都天糾罰大靈官三 界無私。猛吏將金睛 朱髮號。三五火車雷 公鳳嘴銀牙統。百萬 貔貅神將飛騰雲霧</p>		<p>元始一炁七階降龍 伏虎。大將軍崇寧真 君雷霆行符伐惡。招 討大使三十六雷總 管鄴都行臺。御史提 默三界鬼。神刑獄公 事大典者提督。刑案 神大力天丁三界都 總兵馬招兵大使統。天禦 地誅神殺鬼。大元帥。</p>



<p>太上彌羅無上天妙 有玄真境渺渺紫。金 闕太微玉清宮。无極 无上聖癡落法光明 窈窕號。無宗玄範總 十方湛窈真常道恢 漠大神通 昊天玉皇天尊玄 穹高上帝</p>		<p>形物生成施母道 之仁嶽瀆是依山川 咸伏大悲大願。大聖 大慈承天效法后土 皇地祇 地祇上將温元帥。</p>
<p>太陰化生水位之精 虛。危上應龜蛇合形 周行六合威攝萬靈 無幽不察無願。不成 劫終劫始剪伐魔。精 救護群品家國咸寧 數。中末甲妖氣流行 上帝有敕吾固降靈 闡揚。正法蕩邪辟兵 化育黎兆協贊中央。</p>		<p>號。令雷霆降雨開晴 祛邪治病觀。過錯於 一十二年授命天帝積 功勳於百千萬種誓佐 祖師。至剛至勇濟死濟 生方方咸教處。處開壇 太乙雷聲應化天尊</p>



貞明大聖九天應元
雷聲普化天尊

敢有小鬼欲來見形
吾目一視吾獄摧傾
急急如律令



④には

内官監太監安全署承運庫事發心鑄造
銅鐘一口供入都城阜城門外赤水村脩建
玄帝廟守一所

上命

勅賜靈佑觀 永遠供奉
大明正徳八年歲次癸酉孟春上元吉日造

とあり、⑤には

監造廟宇信士 董紀 王福

とある。

⑤ 上帯には十六の蓮弁あり。下帯には八掛と撞座が四つあり、波の模様が施されている。下縁は八葉。

⑥

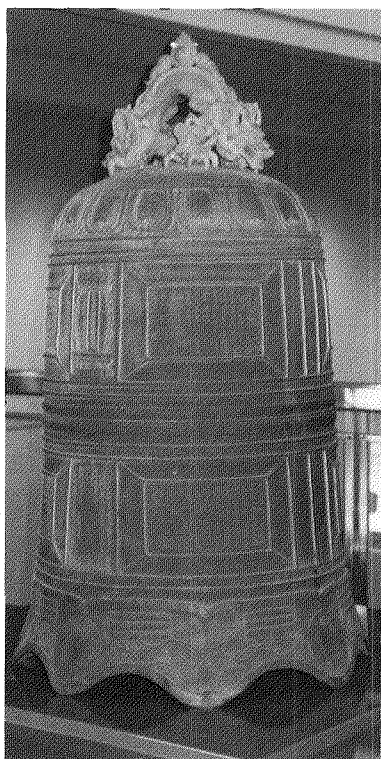
義和団事変（一九〇〇年）後、フランスの軍人が神戸で本鐘を元神戸市長の小寺謙吉に当時の金額四千円で売り、その後、本鐘は現所蔵者小寺敏子氏の父（謙吉の弟）に譲られ、昭和五八年三月にリトルワールドに寄託された。この間、第二次大戦後、本鐘は進駐軍に持つてゆかれたが返却されている。またインドに寄贈されたという風聞がたつたこともある（大島居総夫「犬山市リトルワールド所在の中国鐘」『史迹と美術』六〇二平成二年）。尚、真新利雄氏によれば、義和団事変後、九州ではドイツの軍人が支那鐘を売りに来た、という。

⑧

平成元年九月二七日、鈴木勉氏同行。

⑨

明人沈榜の『宛署雜記』巻十九に、北京城外に二つの靈佑観が見え、一つは三里河に、一つは四里園にあるという。このうち前者は清人呉長元の『宸垣識略』巻十三や光緒『順天府志』京

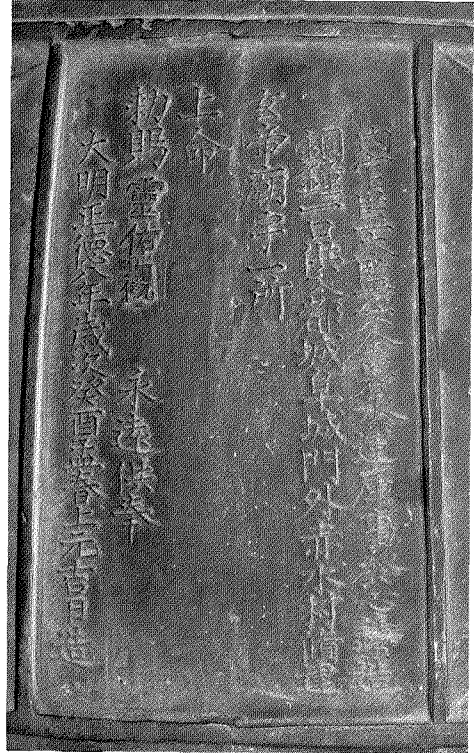


〔図25〕 リトルワールド鐘



〔図27〕

象嵌部分拓本



〔図26〕

象嵌部分

師志十七にも見え、明の正徳年間の創建で、後に広種寺文明上人の別院となり、無量庵と改額したという。三里河は阜城(成)門外の西で、現在も玉淵潭公園の東に地名が残っている。本鐘が正徳八年の紀年をもち、玄帝廟を脩建したこと、そして原銘を彫りくずして靈佑観と象嵌していることからすると、あるいは本鐘はこの三里河の靈佑観のもので、正徳八年以後に靈佑観という賜額を得たのかもしれない。

12 増福院 正徳九年(一五二四) 〔図28・29〕

① 増福院 福岡県宗像市山田

② 大明正徳九年十月吉日(追銘は大明崇禎四年辛未夏五月)

③ 総高一六八・〇 龍頭高三八・二 口径一〇四・〇

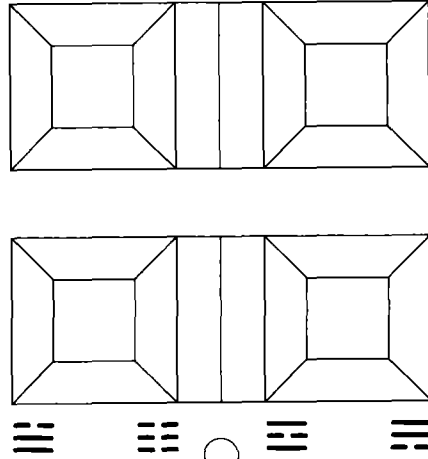
④ 上段下段池の間各四区、上段下段縦帯各四区のほとんどに銘文がある。上段縦帯の「皇帝萬歲萬萬歲」は位牌型内にあり陽鑄。同じく上段縦帯の「大明正徳九年十月吉日造」も陽鑄。下段池の間四区に「大悲円満無礙大陀羅尼神呪」が陽鑄されている。

他は全て陰刻。上段縦帯第三区右側には二行の陰刻があるが、もとは中央に一行があったと推測され、これは削り取られ、同質の金属で切り嵌められている。銘文は行数、一行の字数が不統一であり、なかにはかなり多いものがある。そこで本鐘にあつはまず池の間・縦帯・八掛紋・撞座の關係の概略を示し、つい

で上段から各区ごとに銘文を示すことにする。

(上段)

(下段)



○ (縦帯第一区)

(池の間第一区)

(上段池の間第一区)

内官監奉御。署織染所事

信官張瑠施銀壹兩

常 輪 法

捨與

鉄差總提督京通等處倉場
 内官監太監李慎發。心出
 價銀陸拾兩并同家人
 等鳩財置請銅鍾壹口

轉

勅賜朝真觀掛用

司禮監奉御。署申子庫事

信官徐登施銀拾兩

内官監内使信官張騰

施銀伍錢

(上段縦帯第一区)

皇帝萬歲萬萬歲

(上段池の間第二区)

賜進士出身中書科中書王志舉

京 衛 經 歷 王志學

南 京 應天府舉人深志仁

佛

長安境靈禪寺更易鐘成弟子來遊適逢
 斯會歡喜讚歎附聲不朽 銘曰

法器所貴大音布聲如何發露有叩則鳴
 沉沉窈窕烈烈轟轟天宮地獄一切皆平
 更聞大慈常懷寸鐵。如乘王法豈容剖別
 當機一喝聲耳吐吞迅雷不掩風過響絕

日

增 輝

迄有道師。是名登公。晨鐘暮鼓。不墮若空。
 聞性既徹。耳根自通。圓明清淨。忽然相逢。
 嗟子不慧。累劫難契。頓豁項門。無煩啞謎。
 吹沒孔笛。說不語。覺我震且窮。未來際。
 大明崇禎四年辛未夏五月奉
 佛弟子金華葉幹齋心拜題

左都督保定候。應襲勳衛梁鳳鳴

錦衣衛指揮。同知梁鳳翱

(上段縱帶第二区)

大傅保定候梁世勳

柱國大傅東寧伯夢熊

乾清宮管事巾帽局掌印御用監太監田詔

(上段池の間第三区)

黃永壽 魏國忠 趙 本

皇

尚膳監太監督理苦酒房事等官

掌房太監李進忠 張海 趙承恩

孫 光道

貼房太監周 朝 宗用 趙洪亮

連登捷 陳永忠 夏朝奉 李朝巨

張國璽 馬進忠 王 柱 尹 洪

周文忠 王 進 常國運

尚膳監太監張文昇

擷芳殿近侍尚衣監太監李國輔

御馬監太監董進

酒醋局管理內宮監太監彭 朝

尚膳監太監督理長春房事等官

掌房太監周良惠 孟應元 韓進

王 進 張進官 馮玉守 王永壽

張萬壽榮進壽 陳明順

固

鞏

圖

順天府學生 陳國猷

增廣生 陳國憲 附學生 陳嘉謨

翰林院四夷館辦事譯字官 陳嘉訓

(上段縦帯第三区)

禮儀房掌房事錦衣衛都指揮使陳德清

錦衣衛指揮使陳國善。

大明正德九年十月吉日造

(上段池の間第四区)

信儒熊應望

巡捕管都司李守鏐

帝

欽奉

勅統管都城内外軍國事務兼

轄戶兵工三部司屬五城兩縣城

守一應軍機總督京營戎政大保

襄城伯李守鏐。

道

遐

在軍都督府署都督同知襄城伯

應襲勳衛李國禎

原任資善大夫正治土鄉。兵部

尚書潘希曾。蔭孫奉

佛弟子潘印

欽依都司潘士英

昌

信官田九章 穆應科 陳應魁 王孝

李得芳 田鳳儀 孫廣先

朱應文 米炳

宋敬 宋德光

(上段縦帯第四区)

欽差督理京省錢法戶郎右侍郎劉重慶

欽差協佐錢法戶部山東清吏司主事王珍錫

戶部寶泉局大使黃國經

錦衣衛衣右所千戶李縉施銀拾兩

妻劉氏施銀貳兩

男李瀛施銀參兩

(下段池の間第一区)

徐元奕 林萬明 莫如思 馬達思

張安 林科

大悲圓滿。無礙大陀羅
 尼神呪南無羯囉怛那
 哆囉夜耶南無阿唎耶
 婆盧羯帝爍鉢囉耶菩
 提薩埵。婆耶摩訶薩埵。
 姿耶摩訶迦盧。尼迦耶
 唵薩嚩囉罰曳。數怛那
 怛寫。南無悉吉唵埵。伊
 蒙阿唎耶婆盧。吉帝室
 佛囉楞駄婆南無那囉
 謹埵。薩唎摩訶囉哆沙
 咩薩婆阿他豆輸朋阿

如敏 如怙 性珠 性喜 真金

洪鳳 洪吉 洪泰

洪茲 洪經

(下段縱帶第一区)

境靈。堂上第二代住持 智權
 境靈。堂上第一代開山傳賢首宗澄印
 境靈。堂上第二代冠帶住持 智辯

汝登 海廣。 海深 海晟 明有

妙德 妙月 妙蓮 妙覺 來善

(下段池の間第二区)

行學 行舉 行明 行祿 行茂
 行貴 行眞。 行慈 行緒 行住
 行魁。 行禮 行壽 行上 行才

逝孕薩婆薩哆那摩婆
 伽摩罰特豆怛姪他唵
 阿婆盧。疏盧。迦帝迦羅
 帝夷疏唎摩訶菩提薩
 埵。薩婆薩婆摩囉摩囉

摩酰摩酰喇馱孕俱盧。
俱盧。羯蒙度盧度盧罰
闍耶帝摩訶罰闍耶帝
陀羅陀羅地喇尼室佛
囉穆帝隸伊酰伊酰室
那室那阿囉馱佛囉舍

信士王志奎 趙庄

(下段縱帶第二区)

銘文なし

(下段池の間第二区)

利罰沙罰馱佛囉舍耶
呼盧呼盧摩囉呼盧呼
盧酰利姿囉姿囉悉喇
悉喇蘇噓蘇噓菩提夜
菩提夜苦馱。夜苦馱。夜
弥帝利夜那囉蓮墀地
利瑟尼那婆夜摩那姿
婆訶悉陀夜姿婆訶摩

訶悉陀夜姿婆訶悉陀
噓藝室囉囉耶姿婆訶
那囉謹墀姿婆訶摩囉
那囉姿婆訶悉囉僧阿

浙江紹興府山陰縣人信官凌應龍

凌應鰲

凌應鵠

(下段縱帶第三区)

内府信官 趙良用 孟進忠 李進朝

薄進 王昇 陳有道 劉敏寬

劉進嘉 傅進玉 忠王忠

(下段池の間第四区)

信官候嘉徵 王冲斗 陳景夏

徐可大 許時芳 佛寶

黄海鶴 趙惠

穆法耶姿婆訶姿婆摩

訶阿悉陀夜娑婆訶者
 吉囉阿悉陀夜娑婆訶
 波陀摩羯悉陀夜娑婆
 訶那囉囉囉囉囉囉囉
 婆訶摩婆利勝羯囉夜
 娑婆訶南無羯囉但那
 哆囉夜耶南無阿利耶
 婆囉吉帝爍囉囉夜娑
 婆訶悉殿都漫多囉叵
 陀耶娑婆訶大悲圓滿
 無礙大陀羅尼神呪意

黃 相 蘇景賜 南栢
 魯敏政 趙門王氏 王門梁好壽
 楊門王氏 凌門王氏 李門郝氏

(下段縦帯第四区)

神宮監 太監張朋
 尚膳。監 太監焦玄 胡党 馬深
 宋忠 丁進 蔣進

王三省 舒明遠。 錢 懋 胡廷任 諸允蕃
 方光譽 陳元相 顧 晃 陳三元 王允仁
 馮耀京 陳 魁。 張光燮 邵邦傑 魯 樾
 方萬程 凌堯相 余 炯 章玉珍 陳宗琦

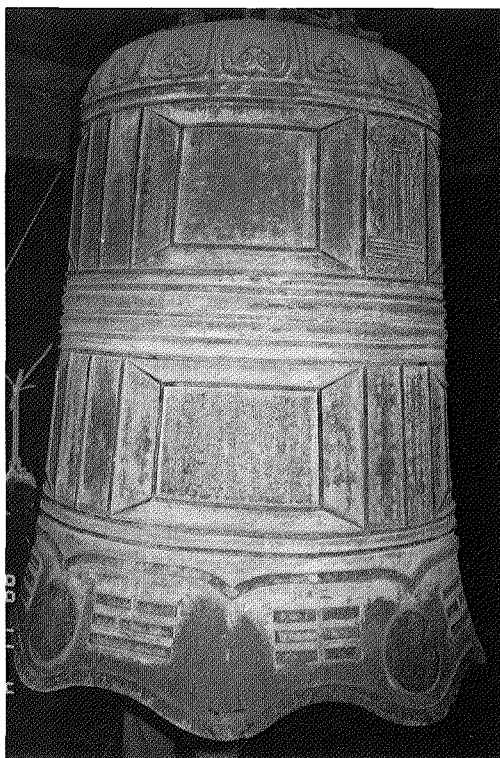
⑤ 上帯には十六の蓮弁あり。下帯には八掛紋と撞座が四つあり、池の間第一区下部から、三、三、〇、三、三、〇、三、三、〇、三、三、〇、三、三、〇となつてゐる。下緑は八葉。

⑥ 日清、日露戦争の頃、壇家が寄進したもの。第二次大戦中、一時、供出させられたが返環された。

⑧ 平成元年十一月四日、鈴木勉氏同行。

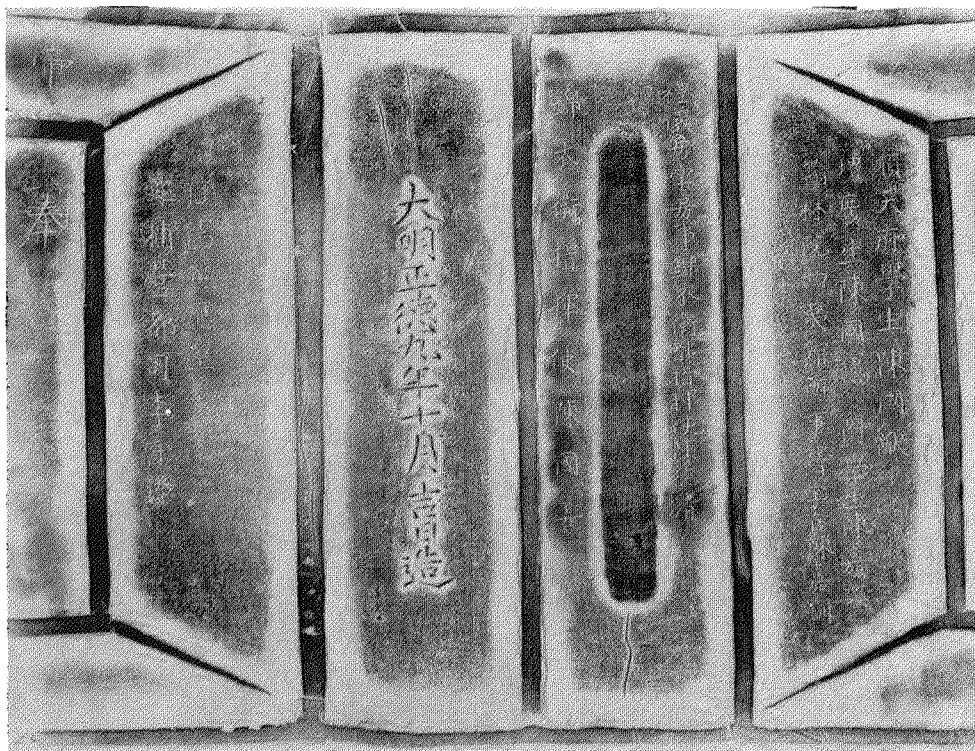
⑨ 鐘銘は正徳九年の陽鑄の部分と其後の陰刻の部分に大別され、陰刻の部分は内容と刻し方から、上段縦帯第四区の左三行と上段池の間第一区の縦書きの部分と第一次の陰刻銘、その他が崇禎四年(一六三一)の追銘と推測されるが、追銘は複数の手によつてなされてゐる可能性もあり、同時期になされたかは判然としなない。陽鑄の部分が原銘であり、これと第一次の陰刻銘との関係は不分明である。つまり上段縦帯第三区の削りとられた一行に別の寺名等の陽鑄があつたとしたら、本鐘は某寺から朝真觀に移り、ついで崇禎四年に長安靈禪寺に移つたことになる。原銘と第一次陰刻銘が同時期のものであれば、陽鑄のほどこされた既製の本鐘が朝真觀に捨与され、その際、第一次陰刻銘が

〔図28〕 増福院鐘



刻され、その後、長安境靈禪寺に移ったといえよう。朝真観は『宛署雜記』卷十九に見え、北京城外の広源圃にあるとされ、『宸垣識略』卷十四にも見え、白石橋の西にあり、康熙三十三年に重修されたとある。前者は明代、後者は清代の記述であるが、同一のものであるろう。白石橋は現在の北京動物園と紫竹院公園の間にあり、南長河にかかる橋である。長安境靈禪院については未詳。本鐘には「大悲円満無礙大陀羅尼神呪」が陽鑄されているが、これは唐の伽梵達摩訳の『千手千眼観世音菩薩広大円満無礙大悲心陀羅尼經』の陀羅尼であり、大正大藏經所収一〇六〇の同經の陀羅尼と比較すると文字の異同が見られる。小稿

〔図29〕 切りぬめ部分拓本



ではそれら異同については具体的に示さない。

13 岩屋寺鐘 正徳九年（二五二四）〔図30・31〕

① 岩屋寺 愛知県知多郡南知多町山海

② 正徳九年

③ 総高三九・〇 龍頭高八・〇 口径二五・四

④ 上段縦帯に銘文。陽鑄。

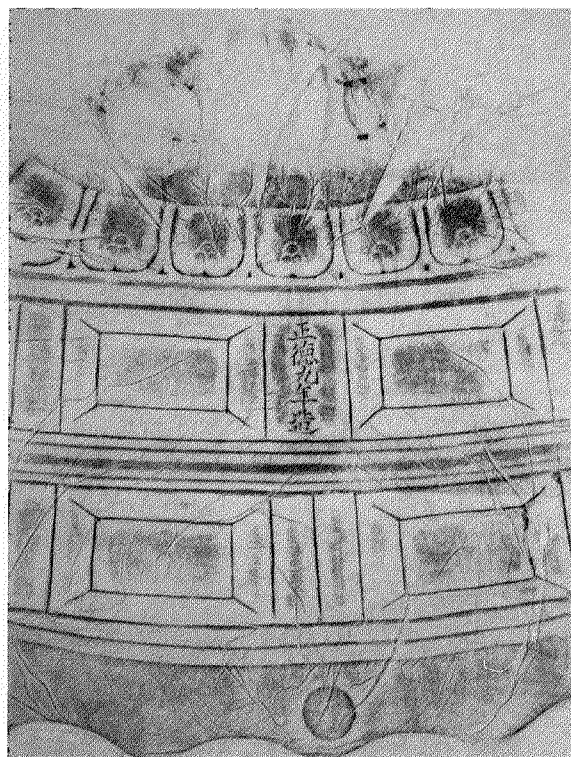
〈銘文〉

正徳九年造

⑤ 上帯には十二の蓮弁、下帯には撞座四あり。下縁は八葉。



〔図30〕 岩屋寺鐘



〔図31〕 鐘銘拓本

⑥ 大正年間、朝鮮仁川松坂町の施主繁野清彦により施入。

⑦ 山本錠之助『岩屋寺誌』（昭和九年）、伊東富太郎『岩屋寺の中

国鐘、銅鐘、鑿口』（尾張の遺跡と遺物）三九（昭和十七年）。

⑧ 平成元年九月二九日、鈴木勉氏同行。

14 宗休寺鐘 嘉靖十九年（二五四〇）〔図32〕

① 宗休寺（関善光寺） 岐阜県関市日吉町

② 大明嘉靖庚子歲

	大明嘉靖庚子歲製				大平護国天尊		
--	----------	--	--	--	--------	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

≡ ≡ ○ ≡ ≡ ○ ≡ ≡ ○ ≡ ≡ ○

〔図 32〕 宗休寺鐘



- ③ 総高一八七・〇 龍頭高二六・五 口径一二七・二 重量二六二五
- ④ 上部縦帯二区に銘あり。ともに位牌型内で陽鑄。
- ⑤ 上帯に十三の蓮弁あり、下縁は八葉。撞座は四つ。池の間、縦帯に雌雄の鳳凰、龍、鶴、雲紋を施しており、裝飾性がゆたかである。
- ⑥ 寺伝によると、義和団事変（一九〇〇年）後、神戸港の埠頭に野晒しになっていたものを名古屋の某氏が宝冠大日如来像（宗休寺に現存）とともに寄進した、といわれる。

- ⑧ 平成二年二月十一日、鈴木勉氏同行。
- ⑨ 岐阜県重要文化財。

15 北山別院鐘 嘉靖二三年（一五四四）〔図33・34〕

- ① 北山別院 京都市左京区一乗寺薬師堂町
- ② 大明嘉靖二十三年十月吉日
- ③ 総高一七二・〇 龍頭高三五・〇 口径一〇八・八
- ④ 上段下段池の間各四区、上段下段縦帯各四区に銘文があり、「大明嘉靖二十三年十月吉日造」と各縦帯の銘文は位牌型内にある。これら銘文の内、下段池の間第二区の「明治三十五年四月上旬納之」と同三区の「北山／別院 大阪御花講寄附」は追銘で陰刻。同三区の「僧人元省 信士李杲」も陰刻。他は全て陽鑄。

本鐘の内側には北山別院へ寄進の折の追銘が陰刻されているが、その一部を録すことにする。本鐘の銘は12の増福院鐘と同様に一行の字数が多い部分もあり、そのまま上段から銘文を示し、ついで下段では八掛紋等も示し、その後、内側の追銘を示す。

（上段池の間第一区）

司設。監掌印太監劉宗政。
惜薪司左司副 王稅。

錦衣衛正千戸劉志成 劉鶴年
寧 晋 伯 劉良奎

内府各衙門太監寺官葛玉 賈胤。

張爵 張威 姚美 厭奉張文英。

王忍 王昌 劉旺 趙輝 朱鈞

劉進 李才 郭印 張弼 劉廉

錢文昇。劉朋 葛進 劉朝 齊思

劉暹 張朝 王篋 張保 段仙

王用 田保 王季 段凱 鄭倉

谷成 楊益 安礼 王朝 劉敖

蘇蘭 李林 牛玉 丘節 連龍

御用監左監丞趙芬

信官趙潛 信士趙登

（上段縦帯第一区）

南無天親菩薩

南無當來下生弥勒尊佛

南無無着菩薩

（上段池の間第二区）

南無三十五佛
南無五十三佛
南無百七十佛

南無莊嚴劫千佛

南無覽劫千佛

南無星宿劫千佛

南無地藏菩薩

南無護法韋馱尊天菩薩

錦衣衛左所掌印千戶馬麟

錦衣衛前所掌印千戶王勗

孫釗

錦衣衛西司房管事捻旗劉祿

楊庭棟

楊宣 呂祥 楊敏 袁寶 連登

辦事旗校

張鶴鳴 胡曠 王文幸 王清 褚銳

東廠辦事捻旗梁輔

東司房辦事捻旗趙方 吳宗

(上段縱帶第二区)

南無日光菩薩

南無滿月世界藥師光王佛
南無月光菩薩

(上段池の間第三区)

御用監太監李清

司礼等監太監官會衆

丘雲 徐良 党奉 劉文彪

劉江 湯灃 王用 杜美

魏爵 馬用 趙衡 相榮

鄭真 吳寶 楊金 張朝

左祿 肖仲良 孫勳 王祿

吳朝 田景 楊保 高廷美

鄭鏞 鄭保 王安 岳欽

司設監太監署借薪司事張環

借薪司信官 祁棗 楊文

李鈿 戴恩 李剛 張雄

劉寧 龐朝 趙鏞 李着

劉敬 孫杌 高朝 姬濬

楊朝

内官監左承署借薪司事張愷

(上段縦帯第三区)

南無文殊師利菩薩
南無娑婆教主釋迦文佛
南無大行普賢菩薩

(上段池の間第四区)

御馬監太監趙景
御馬監太監賢擢
御馬監太監李慶
御用監太監張暹
御用監太監喬經
尚膳監太監任昂
内官監太監樊英
尚膳監太監蕭準
尚衣監太監郭全
尚衣監太監孫奎
内官監太監李敬
尚膳監太監陳宗
御用監太監程朝
尚衣監太監陳紀

尚膳監太監李金
尚膳監太監王敬
司設監太監李初

(上段縦帯第四区)

南無觀世音菩薩
南無西方教主阿弥陀佛
南無大勢至菩薩

(下段池の間第一区)

信女朱普清趙氏等
信女陣氏 楊氏等
信女魏氏 孫惠祥 陳惠連 楊惠真
蔣惠名 謝秀云 韓秀真 沈氏
繆元叅 管氏 李惠云 康元金
耿元奉 耿氏 張元惠 王惠果
張氏 楊妙成 徐氏 景氏
郭善名 馮善會 張氏 陳氏
王氏 孟氏 董氏 盛氏
史氏 李惠云 陸氏 顧氏



寧普伯太夫人蔣氏

閔氏	于氏	李善金	趙氏
張氏	魏氏	陳氏	王氏
宋氏	何氏	張氏	鄭氏
劉氏	真成	常明	索氏?
景氏	張惠智	詹氏	于氏

(下段縦帯第一区)

北方成就佛 法輪常轉。
北方世界主 多聞天王

(下段池の間第二区)

京都順天府宛平縣宣北坊

廣德寺住持慧璇謹發。誠心普
化十方鑄。造銅鍾一口。永遠。
懸扣普施群生聞此。鍾聲齊
證佛果 都管慧觀
書文慧頂 庫司鎮貴



師弟慧池 慧。栞 慧。達 慧。年

從弟鎮英 慧。昇? 慧。連 戒。普

鎮冬 鎮。學 鎮。恭

鎮。實 鎮。廣 鎮。方

鎮。權 鎮。同 鎮。節 鎮。澤

鎮。輝 鎮。擎 鎮。花 鎮。勤

鎮。淵 鎮。清 鎮。崇 鎮。福

鎮。平 鎮。秀 鎮。安

徒孫維鍼 維。銘 維。鈿 維。省

維。録 維。鎰 維。釗 維。銖

維。鈴 定。斌

明治三十五年。四月上旬納之

(下段縦帯第二区)

東方阿閼佛 皇圖永固
東方世界主 持國天王

(下段池の間第三区)

北山



別院
大坂御花講寄附

欽衣萬壽戒壇傳戒宗師

兼大慈仁寺住持真恩

欽衣廣善戒壇主宗師

兼大慈仁寺住持真全

大慈仁寺香序
湛智 圓佐
湛秀 明振

欽衣內經廠書文
圓雨 湛隆

振武衛指揮許昭訓

會州衛千戶 馬欽

勅建大慈仁寺住持通貫

勅賜正法寺住持 大永

釋子慧金 真宝 惟寧 清亮

宗濟 普官 佛林 海東

大明嘉靖二十三年五月吉日造

僧人元省 信士李杲

(下段縦帯第三区)



南方寶生佛 帝道遐昌
南方世界主 增長天王

(下段池の間第四区)

信士郭奉

劉璋

汪錦

袁鐸

肖銳

韓廣

夏咏

王宣

曹山

吳銳

李懷

王傑

繆朝宗

斐錦

劉春

武坡

楊璋

王世寧

尹莊八

李希哲

孫文宝

史載道

陳九臯

韓鏞

袁效龍

曹志蒼

吳瀚

肖祥

王棟

繆朝漢

劉江

高文幸

鄭惟武

王愷

繆綸

戴玉

袁鎧

史斌

葉昭

汪奇

張勇

袁龍

萬傑

張栾

張宇

馮濟

王松

繆朝用

任演

武千

劉朝江

吳進

張錦

袁欽

張欽

趙瓚

袁銳

尹麒

張瓚

趙輝

于輝

扈擴

吳章

任朝

張錦

寧朋

徐茂洪

王臣

劉定

袁錦

張銳

景錫

喬中

尹麟

馮紀

趙奎

于焄

阮庶

袁傑

宋見

任宝

王聰

馬方斤



(下部縦帯第四区)

西方弥陀佛 佛日增輝
西方世界主 廣日天王

(内側追銘)

北山別院大阪御花講中欲新鑄梵
鐘架之同院請銘於予銘成會大阪
市。有客歲北清役所獲洪鐘一口
形貞奇古音調清亮乃購以代新鑄
因命令刻先銘銘曰

肇 田 石

大器新成 勝地增靈
神龍其形 驚雷其鳴
長夜夢醒 早晨心清
遣喚之聲 能濟群氓
明治三十四年十一月
本願寺門跡 光 尊

明治三十三年十月四日
當別院報恩講之際企之

發起者

監督 堅田廣吼
輪番 三谷教應



同助謹瀧川寛了

御花講宿坊

大村影應

圓龍寺住職

世話係

(以下、上段に積某、下段に人名を列挙するも略す)

(以下、上段

の人名畧す)

水原慈音

雄郷寶龍

別院承仕藤野實誠

全 用達吉岡多三郎

山下和三郎

御銘拜鐫

壽光堂 友義

円竜寺前任職

(以下、下段の人名略す)

廓然院影臨

(以下、上段

の積某畧す) 銘刻助手

鬼沢市太郎

(以下、下段の人名略す)

當輪番 安満法顯

同助勤 池田大恵

⑤ 上帯に十六の蓮弁あり、下帯は八葉。

⑥ 追銘によると本鐘は明治三四年四月に北山別院の大阪御花講が北山別院に寄進したもの。内側の追銘によると北清の役つまり義和団事変の折に船載され、大阪で売られたことがわかる。

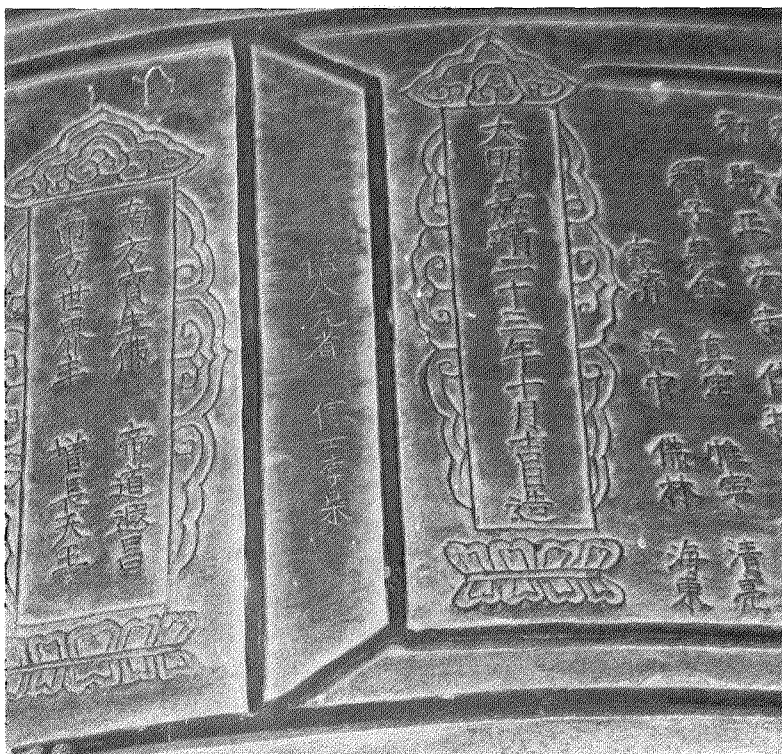
⑧ 昭和五七年十一月三日。平成元年十二月二日、鈴木勉氏同行。平成七年七月二日。

⑨ 本鐘は京都順天府宛平泉宣北坊の広徳寺の住持惠璇が発願したもので、広徳寺に置かれたものであろう。広徳寺は『宸垣識略』巻十に見え、宣北坊の慈仁寺の左（東側）にあり、明の正徳年



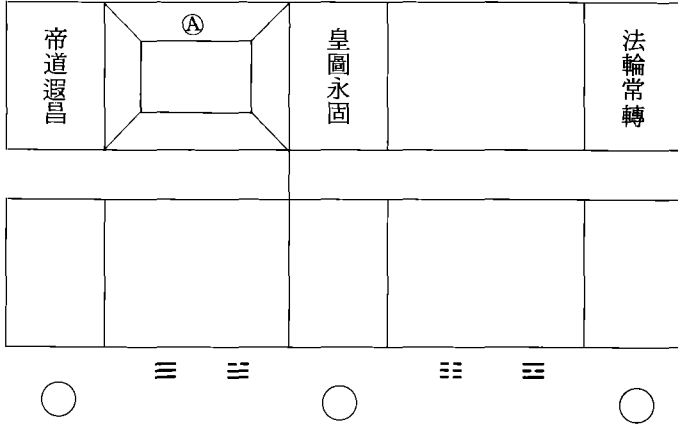
〔図33〕 北山別院鐘

間に重修され、今、鐘鼓楼は皆な圯れている、とある。広徳寺は現在の北京の宣武区の宣武公園の南にあった。慈仁寺は銘文中にも見え、『宸垣識略』巻十によると門額は大報国慈仁寺といい、報国寺とも称した。現在、報国寺は北京市文物保護単位であり、顧炎武の祠があることでも知られる。

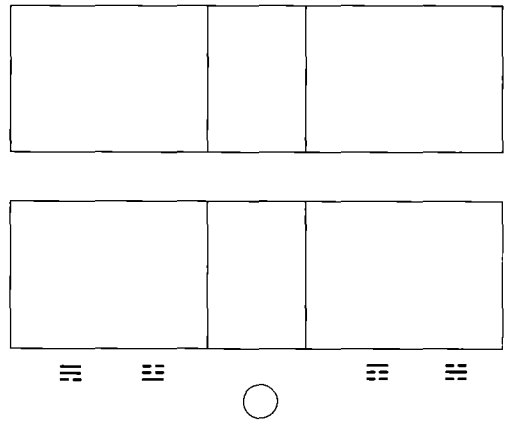


〔図34〕 位牌型と陰刻部分

16 岡本氏鐘 嘉靖四十年（二五六一） [図35]



- ① 岡本泉氏 高知市南はりまや町
- ② 大明嘉靖辛酉九月十九日
- ③ 総高一〇・〇 龍頭高二・五 口径六八・五
- ④ 上段縦帯三区と上段池の間一区にあり。陽鑄。尚、上段縦帯の残りの一区にも銘文があつた模様であるが削られている。



④には横書きで、

大明嘉靖辛酉九月十九日造

とある。

- ⑤ 上帯には十二の蓮弁あり。下帯には八掛紋と撞座が四つあり。下縁は八葉。

- ⑥ 本鐘は大阪府豊能郡豊能町切畑の法性寺の旧蔵。先住が昭和五年頃処分し、昭和六三年、現所蔵者の父である岡本文雄氏が京都の骨董商の仲介をへて入手。真新利雄氏によると元大阪市天王寺にあつたものを当時の住職が入手という（後掲中西報告参照）。これは昭和五三年、真新氏が聞いた先住の談。現住によると、供出した鐘の代りに、おそらくは広島県因島に集積され

ていた供出鐘を購入したものと、という。本鐘が日本に舶載された経緯については未詳。

⑦ 天岸正男「大阪府に現在する中国鐘」〔歴史考古学〕九 昭和五七年）、中西亨「所在が判明した中国鐘「旧法性寺鐘」について」〔史迹と美術〕六三七 平成五年）。

⑧ 平成六年四月十日。

⑨ 上段縦帯第四区には「佛日増輝」とあつたと推測される。



〔図35〕 岡本氏鐘

17 長母寺鐘 隆慶四年（一五七〇）

〔図36〕〔38〕

① 長母寺 名古屋市東区矢田町字寺畑



〔図36〕 長母寺鐘

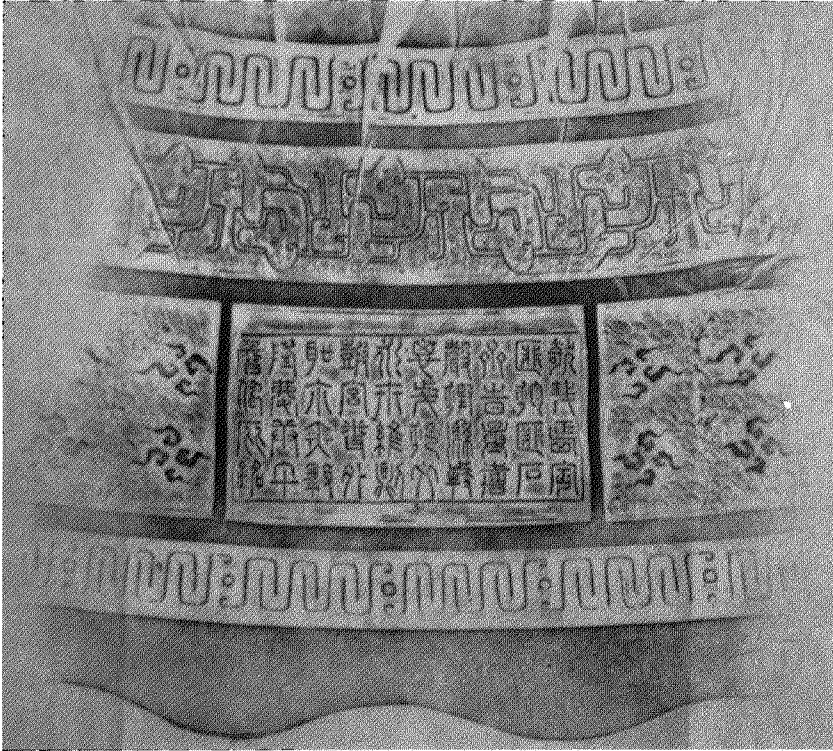
② 隆慶庚午

③ 総高三五・二 龍頭高六・七 口径二三・七

④ 鐘身は四段に分れており、第三段目の矩形内に銘文あり。陽鑄。

猗哉壽宥
匪鈞匪石
齊時量嘉
聲鏗縣特
思武錫文
永世維則
鼓宮聞外

聽爾無敦
隆慶庚午
詹仰庇銘



〔図37〕 鐘銘拓本

⑤ 銘文は篆書で書かれているが、奇字も散見され判読しづらい。

基本的には後掲の水谷悌二郎の釈文によった。本鐘は蠟型鑄物であり、鐘身の各段には精緻な紋様が施されており、工藝品として優美である。第一段と第四段は唐草紋、第二段は雷紋、第三段は雲紋と龍紋。撞座なし。下縁は六葉。下部に裂穴が一ヶ所あり、また鑄かけが三ヶ所ある。

⑥ 未詳。第二次世界大戦前からあり。

⑦ 水谷悌二郎「明隆慶庚午鐘銘集故」(「尾張の遺跡と遺物」九昭和十四年)

⑧ 平成元年九月二八日、鈴木勉氏同行。



〔図38〕 長母寺鐘

⑨ 鐘銘の撰者詹仰庇は『明史』二二五、乾隆『安溪県志』七等に伝あり。字は汝欽、安溪(福建省安溪県)の人で嘉靖四四年(一五六五)の進士。隆慶年間、直節を以って盛名を負ったが、後には保身を計ったとされる。

18 聖蓮寺鐘 隆慶五年(一五七二) [図39・40]

- ① 聖蓮寺 岐阜県不破郡関ヶ原町平井
- ② 隆慶五年歲次辛未仲秋月日
- ③ 総高七九・二 龍頭高一七・四 口径五〇・三
- ④ 上段池の間三区と上段縦帯四区、下段縦帯一区にあり。内、上段縦帯一区、下段縦帯一区は寄進者の追銘で陰刻。他の原銘は陽鑄。紀年は位牌型の中にある。

<p>江西廣信府永豐縣在京 見任聽選信官周宗會等 謹發誠心喜鑄銅鍾一座 入于</p>	<p>勅封護國蕭公順天英佑候 王廟廷并建功德祈保各</p>
--	-----------------------------------

官往返迪吉福祿綿長

上饒見任候選官
吳序李廷玉董楨
連廷□ 楊永芳?

會首周宗會
住持道士白国臣?
京都順天府宛平縣住
匠人周鳳鑄造鍾一口

≡

≡

≡

<p>見任候。選官</p> <p>兪朝贈 周崇義？ 鄭汶節 周文融 鄭 温？ 紀可明 鮑一經 施達可 劉仕矩 劉元熙 王文淵 夏邦良</p>	<p>隆慶伍年歲次 辛未仲秋月日造</p>	
--	---------------------------	--

≡

≡



<p>楊春崇 兪邦傑 汪克言 劉汶濤 葉逢春 劉 瓚 呂方夫 黄□□</p>	<p>清之隆慶五年今去三百五十年前 造梵鐘我祖父母及父母謝高恩 爲供養八幡山聖蓮寺寄贈朝鮮在 住三十年紀念</p>	<p>王文憑 紀汝才 潘世弘 吳繼曾 徐紹光 祝廷鵬</p>
	<p>大正十五年五月 高木德彌 貞子</p>	<p>京城本町壹丁目</p>

≡

≡

≡



⑤ 追銘は隷書。上帯には十二の蓮弁あり。下帯には八掛紋と撞座

〔図40〕
鐘銘拓本



〔図39〕
聖蓮寺鐘



が四つあり。下縁は八葉。池の間、縦帯の幅は各区で異つて
る。

- ⑥ 本鐘は大正十五年、聖蓮寺の壇家で京城在住であつた高木徳彌・貞子夫妻が、祖父母・父母の供養のために朝鮮在住三十年を記念して聖蓮寺に寄進したもの。高木夫妻がどのようにして本鐘を入手したかという点については未詳。尚、本鐘にはペンキ状の白の塗料で「聖蓮寺」と記されているが、これは第二次大戦中の金属供出時に記されたもの。
- ⑧ 平成元年十二月四日、鈴木勉氏同行。
- ⑨ 順天府の英佑候王廟については未詳。

（平成七年八月十八日）

（平成七年九月十三日受理）